

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和3(2021)年  
7月号  
通巻611号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和3年7月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)45-1192  
★印刷 大倭印刷 監修  
★定価 1部 300円  
年間購読料3,500円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



「5月の長島」全国療養者作品展銀賞

1968年5月 加川一郎さん画(文・4頁)

昭和42(1967)年7月23日 月次祭法話より

## 神ながらの味を心で掴む

法主 矢追日聖 (満55歳)

他の人のために働く

今日の月次祭は、非常にお天気が良い  
ございまして夏らしい風が吹いておるん  
で、何かしら清々しい感じがいたします。  
大学生がほとんどですが、この間から  
F I W C 関西の人達が「交流の家」の仕  
事に来て励んでおります。今月の末頃、  
一応竣工式のような形をとるらしいで  
す。

毎日この炎天下で、若い人達がこうし  
た場所に集まって、何かの目的のために  
汗を流している姿を、私は非常に尊い  
と思います。自分達のためじゃなくて、社  
会の一部分の恵まれない人を対象とし  
ていますけど、こんな仕事に取り組んでい  
る。あのような、心の持ち方というものが、  
今の時代に一番必要ではないかと思っ  
ます。

神さん仏さんなんかクソクラエとい  
うような知識層の学生達ですよ。信仰とか  
そんなものを無視しておるような言論を  
吐いている若い人達が、今、目の前でや  
っておる姿を見てほしい。

欲望を満足させるための信仰

大人達が、神さん仏さん有難いと手を  
合わせて拝む時の態度が恥ずかしいと思  
うんですよ。精神内容は、私から見ると  
ほとんど偽善者ばかりなんです。これは、  
教えそのものは別ですけど、日本の  
宗教の問題なんです。

皆まず自分の身の幸せ、家族の健康や安全を願って手を合わす。自分以外のことを考えて信仰している人は恐らくないだろうと思うんです。そんな信仰は邪道だと言えば、今の時代に日本のほとんどの信者はその部類に入るので、お叱りを受けるかもしれません。

欲望を自分の力で満足できないがために、神さんとか仏さんという訳のわからん架空のものを創造して、その超人間的な偉大な力に片棒を担がせる。お賽銭をあげることによって助けられるとか、交換条件をもって手を合わせているのが、日本人の大部分だと思っんです。こういうような宗教がたとえどれだけ世間を風靡しても、どれだけの信者ができて、我々の人間社会は決して幸せにはならない。

しかし、神さんとは如何なるものかということ、私には分かっておるから、世間の人からお叱り受けるようなことでも言わなければならぬ。私にはそういうお役目があり、使命があるんです。大倭に信者がひとりもいなくてもかまわない。信者を増やして世間に有名になるようにしろと、神さんはおっしゃいません。

### 無計画の中の計画

我々人間には結び付きというものがあるんです。これを仏教では「因縁」「縁」という言葉で説明しております。神さんのほうでは「結び」と言っています。いつも申します壁士の寸紗の緒のような、その結びというものは、今世だけやなしに古い時代から繋がっておるものがあるんです。だから現界のこの世において信者などひとりも作らなくていいと、霊界の人達がおっしゃるんです。大体、現代の社会においては教団を大きくする

ことを目的のようにしている宗教団体が多いと思えますが、そんな欲を出さなくても、古い時代から繋がっている者達が、神さんの心に添うような生き方をしていった場合、その縁故によって大倭へ集まってくる。求めなくてもいいと。無計画の中に計画があるんですね。これが神ながらの妙味なんです。

こういうようなことは、話としてはできませんけれども、それを自分の身でもって体験し、日々の生活の中にこれを生かしているこうとなつた時には、なかなか難しいことなんです。けれども、それをできる人が別になくたってかまわないんですよ。できた人間が集まっておれば、宗教も必要なければ教えも必要ないんですから。

人間というのは生まれては死に、死んではまた生まれと、繰り返していく中で人間的な向上というものをしていくんです。つまり未熟な段階において、そうした人達が集まってひとつの向上をはかっていくようにと、神様のほうで仕組みされているんです。

### 霊界人と現界人がひとつになる

終戦から昭和四十年までの二十年間、私自身は冬眠状態であつて基礎作りのような動き方をしておつたんです。それから以後は、「言向けの矢」を放てというご神示でしたので、昭和四十一年からばつばつ言向けの矢を放していくように、今準備にかかつておるんです。

いつの月次祭でも繰り返して申しておりますように、霊界人と現界人がひとつになつてお互いに生きていくんだということ、知ってほしいと思うんです。話を知識で捉えて知るんじゃないに、自分の心の栄養として、自分の血肉の中にそれを

感じ取るということをしてほしい。

肉眼を通して見えるものや耳でもって聞こえるもの、そういう形の世界だけしか考えない人が多いんです。ところが、目に見える肉体と、目に見えないけれど肉体を動かしておる宇宙の生命力というエネルギーがあつて、両方がひとつになつて私達は構成されております。

いわゆる相対的なものがあつて、それが一体となつておるんです。そして一体の中に相対がある。宇宙の最初の出發がすでにそういうようにできておるんです。

### 相対は一体、一体は相対の世界

日本の古典の場合でも、神さんの名称で、宇宙のエネルギーを説明しているんですね。高皇産靈、神皇産靈という相対があつて、それが天御中主という一体になつている。だから、天御中主の話すれば、その中に高皇産靈、神皇産靈というものが、また別にあるんです。結局相対が一体になり、一体が相対になる。非常に尊いことだと思っんですが、それは現代でも変わらない。

私の話す宇宙の真理というものは、そういうところから出發しているんです。過去の人達もやっぱりそういうように感じとつておる。今さら私が発見して言っているんじゃないんです。先人の体験したことを私がただ繰り返しておるだけですから、私が研究して新しいことを発表してゐるんじゃない。昔の人の真似をしてゐるんです。

私達人間の世界があれば、肉体を持ってない人間の世界もまたあると、受け継ぎをやつておるだけのことなんです。肉体を持っておる矢追日聖と肉体を持たない矢追日聖というふたつのもものが、この肉体でひとつになつておるんです。

## 肉体と心は切り離せない

肉体と心、これを切り離すことはできない。ちよつと神経を痛めたらノイローゼになってしまふ。ちよつと心配事があったら胃病になってしまふ。肉体と心は、そんな密接な関係にある。何かしら別々のものだけど、ひとつのものです。

肉体を持つておる我々人間の世界があれば、肉体を持つていない人間の世界がまた別にあるということ。それが裏表になって交流している。意識しても意識しなくてもそうなっているんです。これは理屈でも何でもない。分かる者には分かるし、分からん者には何年たつても分からない問題なんでね、私は頭から押し付けて言うんですけれども、大倭に来る人はまずそれを信じてくれなきゃいけない。

信じなければ信じないでかまわないんですよ。かまわんけれども、それが分からないようなことでは、人生というもの、または人間社会というものが、いつの時代になつても混乱して、人類と人類が殺し合う戦争が起きるし、自分さえ良かったらええとか人の不幸を喜ぶような、神の心に反する現象があちこちで起こり得るんです。

## 人類とつごものはむつじ

肉体を持たない人間の世界が、片方にあるというのを忘れて、肉体を持つておる人間の世界だけのことを考えて法律を作る、あるいは政治をやる、社会保障がどうかというのも結構なことなんです。とにかく現象界のこの世が全てなんだという考えなんです。

けれども、あの世のことを忘れておつたら、決

して順調にいかないんです。裏からみな邪魔するんです。あの世のことを無視するような人間が世界に多ければ多いほど、世の中は混乱して人類皆が不幸になるんです。

小さくみて個人の家庭の場合、一番身近であるのは血の繋がった先祖さんなんです。それが集落になると、氏の先祖を氏神さんとして祀つております。それは血の繋がった一番短い関係なんです。

そして、これをどんどん遡つていけば、人類というものはたつたひとつです。やれ日本人や朝鮮人やの中国人やの、イスラエル・ユダヤがどうか、そんな全然ないんです。わずか何千年、何万年の人類の歴史なんか、宇宙の生命からみたら芥子粒より小さい存在なんです。

それを我々現界人だけの認識でみるがために、この民族はどうしなきゃいかんとか、日本の国はよその国に対してどうしなきゃいかんとか、ここが、ボチボチ狂つてきているところなんです。世界の人類は、神さんの心ではひとつなんだけれども、人間が勝手に差別を作っているんです。

## 先祖が浮かばれていないとは

話を戻すと、自分の血を分けた先祖さんというもの、これが一番身近な関係なんです。そこで先祖さんが浮かばれなければ子孫は幸せにならないんだと、お供えせよとかお経をあげよとかね、よくやるんや。あるいはこの先祖さんを祀つたら浮かばれるとか、そうしたことを目的にしたような宗教団体もかなりあります。まあ、それは決して悪いばかりではないんですけれどもね。

自分の生んだ子の中にも健康な者も、弱い者もできる。同じ種で同じ畑で五人子供産んだら五人

とも皆違うでしょ。宇宙の摂理でもって、どんな子もできてくる。それを先祖が浮かばれてないからだの、そんなことは人間が勝手に言っているであつて大間違いなんです。人は皆、必要があつて出てくるんですよ。善とか悪とかの観念でものをみると、神さんの心には添わない。

先祖さんを浮かばせるということは、言い換えたら先祖さんを喜ばせるということなんです。地獄に落ちているのを引き上げて浮かび上げさせるという、そんな意味ではありません。仏教が日本に来てから、そういうようなことを言うようになったんですけれども。仮に首吊つて死んだ先祖さんがおつたら、霊の世界において苦しんでるかもしれん。それを子孫が喜ばしてやるということが必要なんです。

肉体のある現界人が今の家族ですけど、それに繋がつてきた先祖さんは肉体のない、あの世の人であつても身近な関係なんです。いつでも密接不可分な関係で生活している。ただ肉体がないだけであつて、肉体がある人間と同じものを全部持つているんです。

## 同じ気持ちでお仕えする

我々は心の中に喜怒哀楽とか、感情とかを持つています。肉体をばつとはずしてしまつたら、そういうものが残つて、あの世で生活しているんです。死んだらお終いと違うのです。心と肉体のよう裏表の関係で結び付きがなければ、霊界の人、肉体を持つている方も幸せな生活ができないんです。

肉体のない人間にも、肉体のある我々の世界と同じようにやっぱり生活がある。ところが、今日は命日だとして、まるで義理みたいに自分と切り

離れた人のことのように、ただもう伝統的な習慣でやっておるようでは、霊の世界の生活も決してうまくいかない。両方の結び付きがしょっちゅう無かったら、霊の世界も現界の人達も幸せな生活はできないんです。

日本の古代の土俗の信仰ではそういう関係があったから、肉体のない人間の拠り所として神社を作って、生きている人と同じ気持ちでお仕えをしていたんです。祝詞にでも、我々が食べるような海のもの山のものを、「横山の如く高成して置き奉る」とかあるのは、そういう気持ちなんです。

## 祭政一致の意味

日本の古代の氏神信仰というのは、人間と切り離して神さんだからと祀ったものと違うんです。肉体がない人だけでも、我々肉体を持っている人と同じ所で同じように生活しておる者同士なんです。自分達と同じことなの。だから自分の家のことと考える場合でも、生きている人間の考え方はこうやけども、肉体のない先祖さんはどうなことを考えておるやろ、いっぺん意見も聞いてみようよ、霊の世界と現界とが交流するわけです。

昔は霊能者とか巫女さんとか、仲介者が必ずおったはずなんです。その人が我々の代表として、霊界人達の意見を聴くわけです。そうすると、霊界の方ではこう言うのとるぞと伝えてくる。人間の方はまたそれを具体的に考える。それが、昔の日本にあった祭政一致です。つまり祭りまつりと政まつりはひとつであるということなんです。

「まつり」ということは、霊界人のことを神さんにしておいて「まつろう」て行く、ついて行くということなんです。神さんを祭るといって「まつりごと」が、実際現界においてやる政治ということ

となんです。

## 話しあって協力しあう関係

今、神様と言いますとね、キリスト教あたりで言うような、全てのことが全部分かっていて、いかなる力でも発揮できる、そういう偉大なる存在だと思ふか知らんけれども、日本人が昔から神さんと言ってきた感覚と全然違うんですよ。霊界人を神さんと言っただけでなく、例えば古典で荒ぶる神を征伐したとか、戦争の相手にでも使うしね。

霊界の人達と現界の人達とが親密で、お互いに協力し合う。姿のない霊界人も肉体を持っている現界人も、いつも話し合っ共ともに幸せにしようやないかという暮らし方をする。そういう家庭が増えてくれば、理想論だけれど世の中の不幸というのは、恐らく無くなると思うんです。これはまあ私は宗教的な立場で言うんですけれどもね。

現界の人間のことばかりを考えているのは、片目で道を歩いているようなものです。遠近感が無く足を踏み外す。結局両方に目が付いていることを忘れて、片目で世渡りしているのと同じことなんです。

現界のことばかりを考え、どうしたら幸せになるかと考える。霊の世界があることを忘れて、それを全然勘定に入れないような生き方をすると、思い通りの結果が出てこない。この点をよく分別して聞いてほしい。

今私が言うておるような話が、お互いにこうして大倭に寄って来て、宇宙に繋がる自己本霊にちよっと触れた時、哲学とかやなしに、何か分かるもんがあると思うんです。

大倭の宗教というものの入口は、哲学やとか話し合いとか、そんなでもよろしい。けれども、

神ながらの真実、いわゆる「味」を掴もうと思えば、頭とか知識とかじゃなしに、自分の心でもってそれを掴んで味わう。それが本当の神ながらの味やと私は思うんです。皆さんもこうやって大倭へお出でになっておるんですから、そんなことも心得てほしいと思うんです。

来月の二十日は東光祭で、これはまた非常に意義のある記念日でございます。(文責・編集部)

## 表紙絵について

### 絵の里帰り

F1WC関西委員会 柳川 義雄

表紙のこの絵は「5月の長島」と題され、岡山県の長島愛生園に住んでおられた加川一郎さん(通称名)が昭和43年(1968年)5月に描いたものです。その名の通り長島愛生園の半世紀近く前の姿が描かれています。この絵は全国療養者作品展で銀賞を受賞し、昭和43年6月に三越百貨店で展示されていたものです。

加川さんは三重県の出身で一志郡(現在津市)にある学校の教師をしていて発病し、昭和25年に愛生園に隔離されました。その後、園内で子供たちに絵を教えながら油絵を描き続けました。

加川さんはもう亡くなっておられます。しかし、彼の残した絵の内6枚は死後に三重県人会の人たちの努力により里帰りし、「生きた証に」と題されて津市の誠之小学校の玄関に飾られています。

小学校では絵を見ながらの講演会なども実施され、子供たちが加川さんの生涯について知る機会が作られています。目から入っていく絵画の伝達力は文章とまた異なったものがあるようです。

愛生園に残されている絵画をいろんなところにもらい受けて人目に付くようにしたいと思っています。(三重県四日市市在住)

じんずうりきによぜ  
 「神通力如是」の真意をさぐる 第十四回 大倭教の源流にさかのぼって

今回も奇稲田姫と倭姫の対話ですが、当時(昭和16年)の日本は霊界の悪魔の働きにより現界は闇の中にあり、その闇を押し開いていくために真の妙法を唱え続けて欲しいという奇稲田姫の切実な願いが語られています。その真実を読者とともに考えていきたいと思えます。

原文

十一月十二日、午後八時 於鳥見庄山

神楽、「倭姫。集ヒマセル皆ノ者、コノ大倭鷄ノモリ、我が日本ニ<sup>①</sup>アダナセル悪魔怨敵退散ノ題目トナヘラレヨ。吾レモトモニ唱ヘ申シ候。倭姫オネガヒ致シマスル。題目、<sup>②</sup>」

「吾ハ、大倭鷄杜ニ<sup>③</sup>坐ス、奇稲田姫。皆ノ者、ヨク承ハレ、南無妙法蓮華經ノ七字ハ宇宙ノ大真理、法華經ノ題目デモナイ。吾レモ唱ヘム、我が日本ノ為、スメリオヤノ為、幾千代マデモ聖壽萬歳、祈リマツル。、、題目、、倭姫ヨクゾ参ツタ、ミ神楽ソウシクレイ」  
 「倭姫、有難キオコトバ、心カラノ<sup>④</sup>ミ神楽ソウシ申サム。ツタナキワザニ候ヘド

モ、ナニトゾオ許シメサレ」手舞。  
 「大八洲嶋、秋津嶋根ノ日本ハ、大内山ノ色マシテ、代代トコシエニ榮エユク。聖壽萬々歳。題目、<sup>⑤</sup>」

豊アシハラノ中津国、我が日ノ神ハ皇孫ニ、コノ、豊アシハラ、千五百秋ノ瑞穂ノクニハ、我が皇御孫ノ君タル可キ地ナリ。汝、皇孫、行キテシラセ、サキムマセ。天津日ツギノ榮マサンコト、天地トトモニキワマリナカルベシ。

トナヘラレテ候。有難タヤ、コノアリガタキ日本ニ、生ヲウケイデ、真ノ妙法トナヘル者ハ果報モノナルゾヨ。ミナノ唱ヘ候ヘ、真ノ妙法題目。今我が日本ハ闇ナルゾ。妙法トナヘラレ、コノ闇ヲ押開キ、我が日本ヲ護リマセ。八百萬ヨノ神等ト、トモノ喜ビアヘル日ゾ迫リタリ。皆々妙法トナエ、我が日本ヲアダナセル悪魔怨敵退散セラレヨ。

拙ナキワザニテ候ヘドモ神楽舞ヒオサメ候」  
 「吾レハ、奇稲田姫。ミナノ者、コノ言ノ葉ヲヨクノムネニ體シ日日ヒマアル時ハ真ノ妙法ヲ、我が日本ノ為、皇孫ノ

為、題目唱ヘ候ヘ。奇稲田姫ヨリ頼ミ申ス。吾レモトモニ唱ヘン。倭姫、御苦勞」  
 「倭姫、ミニアマルオ言葉、有難クチヨウダイ仕リマス。拙ナキワザニテミ前ヲケガシマイラセ、オユルシアレ。オイトマチヨウザイ仕ル」

註釈

①アダナセル

「仇なす・寇なす」敵対して害を加える。(岩波書店『広辞苑』による)

②スメリオヤノ為

スメ(皇)・・・神または天皇に関する物事の名に冠して用いる語。

ミオヤ(御祖)・・・親・先祖の尊敬語。(岩波書店『広辞苑』による)

この一文は奇稲田姫の語りである。その姫が聖壽万歳と呼ぶ相手は日本の第一代のスメラミコト(天皇)であるニギハヤヒノ命だと考えられる。

③ミ神楽(御神楽)

皇居および皇室との関連が深い神社で神をまつるために奏する歌舞。

里神楽・・・御神楽に対して、諸社や民間で行う神楽。と『広辞苑』には対比して説明してある。

ここ(大倭)神宮の杜でミ神楽を舞うというのは、ここが文字通り霊界では皇居(スメラミ

コトの地である」ということを言われている。

④豊アシハラノ中津国

葦原(アシハラ)は葦の生いしげっている原のことで、我が日本の古の美称。(平凡社『大辭典』による)

大和(奈良県)の北部(奈良盆地)は大きな湖であった。その湖が国分近くの亀の背のところで少しずつ地殻変動して大阪の方に流れ出し、葦等の植物が生えはじめたといわれている。今も奈良地方の古老達は「ヒロミ」(広い海)という言葉でその地名を表現している。この盆地に稲が育つようになって人口が増え、国が形づくられたのであろう。

⑤我方日ノ神

「神通力如是」第九回(令和2年9月号)の原文にも倭姫の発言として「皇祖、瓊瓊杵命ノタマヒシ」に続いて今回の原文と類似のことが語られており、そこで言う「皇祖」とは通説で言われている天照大神のことではなく、その解説で述べたように奇稲田姫命のことである。そして今回の原文では「我方日ノ神」が同様のことを述べたと記されているので「我方日ノ神」は、やはり奇稲田姫命ということになる。

法主は以前に天照大神とは太陽神の象徴であり、人格霊ではないと言われていたことも参考にされたい。

⑥豊アシハラ、千五百秋ノ瑞穂ノクニ

豊葦原千五百秋瑞穂国。「豊」はみち足るの意にて美称。「千五百秋」は限りなく多くの年月、永遠。「瑞穂」は米穀のみのるの意。豊葦原も瑞穂国も共に日本の古の美称。(平凡社『大辭典』、福武書店『古語辞典』による)

⑦皇御孫(ヌメミマ)

他の箇所では皇孫とあるのに対し、ここでは唯

一(?)皇御孫と尊称を冠して表記してある。又『広辞苑』によると「皇とは「きみ。開祖の偉大な王の意」とある。以上のことから、ここに表記された皇御孫とはニギハヤヒ命に始まるスメラミコト達のことを指していると思われる。

(現代語訳)

十一月十二日 午後八時 鳥見庄山において

妙月神懸かりして神楽を舞いはじめぬ。

倭姫「私は倭姫。ここ庄山に集っている者達よ、私が今参っている大倭鷄の杜(大倭神宮・登美・長曾根)は八百万代の我が日本民族歴代祖神達(人格霊)の集っているところです。

この日本に害を及ぼしている悪魔怨敵を退散させるため題目を唱えて下さい。私も共に唱えます。私からお願いです。題目、、、

奇稲田姫「私は大倭神宮の杜に坐す奇稲田姫。あなた達よくお聞きなさい。南無妙法蓮華經の七字は宇宙の大真理をあらわしている。法華經の単なるお題目でもない。私も唱えます。それは日本のためであり、ニギハヤヒ命さまのためです。末永い命さまの弥栄を祈ります。、、、題目、、、

倭姫よくぞここ日本の祖廟である大倭鷄の杜にきてくれました。この大倭鷄の杜でミ神楽を奏しておくれ」

倭姫「倭姫、有り難いお言葉をいただき、心からのミ神楽を奏します。拙い舞ですが、どうぞお許しください。手舞、「いくつかの島々から成る、稲の豊かに実る日本。この日本のスメラミコトの位(命・使命)を引き継いできた皇孫達のいるところ(霊界の大倭神宮)は美しさがますます映えてこれからも栄えていくでしょう。ニギハヤヒ命

さまいつまでも栄えあれ。、、、題目、、、豊葦原の中央にある国(大和)におられる奇稲田姫が高千穂の地を代々治めてきたスメラミコト達に申されました。

豊かに葦の生えて、どの年もみずみずしい稲の穂の育っている国(大和)は、私たちニギハヤヒ命(初代スメラミコト)に始まる系統にあるスメラミコト達が代々治めている地です。

高千穂の地を代々治めてきたニギギ命に始まるスメラミコト達よ、この大和に行つてそこを幸せに治めなさい。スメラミコトの位(使命)が継続されていくことは、天地のあるがごとく終わりはないでしょうと。

これは有り難いことです。この様な有り難い日本に生を受けて、真の妙法を唱えることの出来る者は幸せ者ですよ。皆々真の妙法、題目を唱えなさい。現在の日本の状況は闇です。妙法を唱えなさい。

この日本の世が乱れて治まらない状況を正し、日本を護りなさい。数えきれないたくさん霊人達とあなた達が一緒に喜び合える日は迫っています。皆々妙法を唱えこの日本の国に害を及ぼしている邪霊たちを退散させなさい。

拙い神楽でしたが、これで終わらせていただきます」

奇稲田姫「私は奇稲田姫。皆の者、今倭姫が申したい言葉をよく心に納め、いつも暇ある時は真の妙法を、日本のため代々のスメラミコトのため題目を唱えなさい。奇稲田姫からもお願いします。私も共に唱えます。倭姫よ、ご苦労でした」倭姫「倭姫 身に余るお言葉をいただき、ありがたく頂戴いたします。

拙い舞で奇稲田姫さまの御前を汚しましたがお許しください。これで失礼いたします」

# 寸 莎

第144回

且田 容子さん  
かつた ようこ



## 明日は花ひらく

「縁というものは、ほんとうに不思議。人を大事にしていかなあかん。お互いに成長していくんやから、一度出会ったら、私はどんな嫌な人でも最後まで付き合うてきたよ」

この5月をもって、法主様の使命を感じ取られ、父・森下新蔵さん(申孝会・すさのお会会長)の志を引き継ぎ、40年間代表として大倭を支えてきたボランティアグループあじさいの箱の活動を閉じ、安宿苑の評議員を辞任された。(610号参照)

日聖祭や1泊の秋の文化行事では容子さんがお披露目するおもしろマジックに、会場は笑いでいっぱい包まれる。そんなお人柄である。

昭和22年11月、容子さんの姉久子さんの病を通じて、法主様と森下家の縁は結ばれ、法主の引導によって久子さんは安らかに帰幽された。

「両親はこの事により全幅の信頼をもって、以後約40年間、法主に任せ、支えてこられた。法主様は、

「藪入りのような気持ちで」月に1度は大阪の住之江にあった、新蔵さんの経営するうどん屋「むつみ」の2階へ教導に訪れたというから、その関係の深さを窺える。親子2代に渡って70年以上、縁の下の力持ちとして大倭に関わってこられた。

昭和15年12月。容子さんは大阪大國町の棟割長屋で、父新蔵、母糸のもと、6人兄妹の4番目に生を受けた。大らかな新蔵さんの事が大好きで、栗おこし職人でもあった新蔵さんの仕事を見ながら、ポン菓子が入った大きな缶の中に入って菓子をほおぼって遊んでいたらしい。

戦時中、「町は焼夷弾で火の海。用水路に突っ込み足だけ見えてるよな人の中を泣きながら逃げた」。戦後、恵美小学校に入学してから

の容子さんは、「じゃりん子チエ」って漫画あるやろ。あれと私そっくりやったわ。通天閣がある新世界の街に、ものすごく友達がいってな、中学生になるとあだ名は「お父ちゃん」て呼ばれてた」。

キャビンアテンダントが夢だったが、家は貧しく、遅くまでお店を手伝い、姉にこき使われ「何回も死にたいと思った」。しかし、この経験は就職後、随分と役に立ったぞうだ。城南学園高校に入学。簿記などを身につけ、大同生命肥後橋ビル7階にあった法律事務所に就職した。

4年間、裁判所の定款など文タイプで打ち込む仕事をしていたせいか、視力が落ち、広告代理店に転職。テレビ広告の製作を学び、取材をしては広告作りに励んだ。

月夜の晩。9月13日、21歳。友人達と3人で京都府綾部へ車で向う途中、カーブを曲がり損ね3m下に転落。容子さんは総毛立ち、顔には持っていたジュースの瓶が突き刺さっていた。親友は亡くなり、1人は大怪我。容子さんは脳内出血で4ヶ月寝たがりの生活を強いられた。母系さんはすぐに法主様に尋ね、頭を氷で冷やすよう教えて頂き、その通り実行し、後遺症も残らず難を逃れる事ができた。この出来事が「人の痛みを感じ、助け合う」容子さんの福

祉的活動の原点になったという。

傷を負い、「もう結婚できないと思ったから、ひと月住み込みで見習いに行つて、うどん屋の隣に13坪の喫茶店「an」を開店」。大繁盛し、2年で5百万円を完済した。「夜はダウンライトにして、サントリーで免許を取得し創作したカクテル、明日は花ひらく」がヒットした。

「むつみ」や「an」の常連客だったのが、関西電力に勤務していたご主人の英行さんである(寸莎第138回参照)。結婚し喫茶店は姉に譲り、堺の自宅での生活が始まった。

ここで出会った仲間によって「10年間家族ぐるみの中身の濃い付き合い」が生まれ、この胎動があじさいの箱へと結実していく事になる。

「子供を広い所で放つたらかしておいても元気に育つように」と三重県名張市に家を新築。二人の子供はのびのび育ち、共にう児の親である。法主様に、「やりたい事やって、ええ人生やったと思つて死にや」と言われていたので、「魚が大好きやし」64歳からスキューバダイビングを始め沖繩全島を巡り潜つた。

容子さんは現在も、自宅で書道やお料理教室を開き、地域の一人ひとりとの縁を育んでいる。

「子供達にもっと大倭の事を伝えていきたい」(聞き手 李章根)

# あじさい日誌

6月7日 紫陽花邑の入り口にあたる須賀ノ道の元大倭病院側の雑草が通行の邪魔をするため、その刈り取り、伐採が業者さんにより行われました。

6月13日 午前8時過ぎから家麻呂教長さんをはじめ邑人7人が一日がかりで、瑞光院の天井裏のアライグマの糞掃除。糞の量は想像以上でした。

6月15日 大倭神宮月次祭。  
6月19日 午後、交流の家で3カ月毎のFIWC定例委員会。

6月23日 大倭大本宮月次祭。この日お聞きしたのは昭和42年6月23日月次祭法話でした。ちょうど発行された6月号『おおよまと』に「死んでお終いではないー皆お役目を持って生まれるー」として掲載分。

6月24日 瑞光院のトユの取り換え工事が行われました。  
7月4日 瑞光院の天井裏に仕掛けた捕獲器に、牙を剥いてアライグマが入っているのを発見。何日からだったのかは不明。

7月6日 大倭神宮月次祭。  
アライグマについて奈良市役所に連絡。天井裏から下ろして

## 東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

令和3年8月22日(日)曜日・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。

正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わり次第、拝殿に祭主をお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。

祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

**お願い** 当日の密集・密接を避けるため、後日、お越し下さる方の経木は拝殿でお預かりしておきます。皆様のご協力をお願いします。

くれたら引き取りに行くとのこと。さてどうやってと思案中に死んでいて、「生ゴミで処理して下さい」と言われました。それもちょっと複雑な感じ…。

夜、大倭会館で邑倭の会。大倭安宿苑では

6月15日 目標再設定による意識向上、定着化のため中堅職員研修会(オンライン)。  
(菅原園)  
7月5日 奈良市長及び市会議員の不在者投票を行いました。(須加宮寮)

6月17日 水害を想定した垂直避難訓練を実施しました。  
6月29日 住死者と職員で法人運動場の清掃を行いました。

## あんない

\*月次祭(大倭神宮)  
8月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催祝会

8月8日(日) 大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時より。なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。

\*大倭教立教開宣祭

8月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

\*東光大祭及び祖霊祭

8月22日(日) 上欄に詳細。

\*月次祭(大本宮)

8月23日(月) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

(長曾根寮)  
6月11・29日(特養) ベランダや玄関前で外気浴。「あじさいが綺麗ななあ」「湿気があるから」と口々に言われていました。

6月26・28日(デイ) 「七夕の壁掛け飾り」の作品づくり。  
(茂毛路園)

6月29日 定例懇談会に5名のご参加。「昔食べた食べ物」の話題で「昔はタニシやザリガニを食べていた」と思いついた。  
(八重垣園)

6月3日に1回目、6月24日に2回目のワクチン接種。副反応も特に問題はなく、早く外出できますように！と皆さん願っておられます。

## 大倭会通信

【新入会員】

・宮城島 豊さん 5月

・日比野順子さん 6月

・大倉 有宏さん 6月

・サトウアキコさん↓6月に会費相当の入金。どこかで『おおよまと』を読んでいる方で、入会申し込みか？漢字表記も住所も不明。ご自身か、またご存知の方は教務本庁(074214511192)にお電話を。

【訂正】 6月号法話の2頁1

段目、後ろから9行目「思惟一念」は「信一念」の聞き間違いでした。

## 波紋

《カナダ・オンタリオ、斎藤光代さんより岸田哲さんへのメール》  
カナダのコロナの状況も少しずついい状態になりつつありますが、まだロックダウンが続いており、私も指圧のオフィスを再開できるのは6月半ばになるだろうと思っています。

最近、メキシコにいる私の兄の息子が私と連絡を取りたがっていて、兄の肺ガンがひどくて4月半ばに4回目の手術をするけれど、手術後は会話も不可能になるだろうから、私に謝りたいというのです。

でも私はもう話しをする気もありません。兄が発端で、奈良の法主さんやカアさんたちに助けられ(※当時のことは近いうちに記事にする予定です)、山梨の金峯牧場でかくまわれたり、その後もさまざまな紆余曲折があつてカナダ人の医師と結婚して、今カナダにいらるという思いもかけない人生になってしまったことに対して、今さら謝られても元には戻れません。あくあ、私は長崎で普通の平凡な暮らしをしたかった、と今でも思いを馳せることがあります。多分、メキシコの兄は手術後に亡くなったのでは、と思われる。私よりも5歳上なので74歳でした。私の中の嵐がやっとおさまったんだなあ、という気がします。